



ロータリーは
世界をつなぐ

2019-2020年度丸子RCテーマ

手をつなぎそして一歩前に



RI会長/マーク・ダニエル・マローニー D2600ガバナー/古川静雄
会長/服部正 副会長/田中利幸 幹事/掛川浩邦 会報委員長/斎藤育子

第2723例会

2020年4月9日 Vol. 57/No. 28

短縮例会

本日の例会は新型コロナウイルス感染防止のため短縮例会となりました。

先日幹事より

新型コロナウイルス感染防止のため今後の例会運営について以下の基準を定めるとの案内がございました。

- ①上田保健所管内で感染が散見されるまでは例会を継続する。
- ②長時間に渡り集会することを避けるため、プログラム等は行わず、換気を行ないながら十分な距離を取り、会食のみで散会する。
- ③感染が心配な会員は、会報掲載用のメッセージを添え、前日までに届け出ること出席扱いとする。

昨日(8日)上田保健所管内にて感染者が出ましたが、急なことで対応ができませんでしたので本日は例会を行いました。

来週からは、当分の間例会を取りやめることとなりました。



本日の例会は、十分な距離(2m)を保ちながらの会食・懇談を行いました。

【会長挨拶】

服部正会長



今回の会長挨拶は、先月の29日に新型コロナウイルスで亡くなられた、志村けんさんの話をします。

故 志村けんさん(前編)

「生い立ち」

1950年2月20日、小学校教諭だった父・憲司(けんじ)と母・和子(かずこ)の三男として東京都東村山市に生まれる。二人の兄(長男・知之と次男・美佐男)が大学を卒業して公務員になった

が、末っ子の彼は異なる人生を歩むこととなった。なお、芸名の「けん」は父親の名前から取ったものである。

幼い頃、父は厳格な人物で、彼の支配する家庭はいつも重苦しい雰囲気にもまれていたが、当時はまだ珍しかったテレビのお笑い番組で漫才や落語を観ていた時だけは、嫌な日常を忘れることが出来た。

志村は、「その時だけは父も声を出して笑っていた」と語り、そのような体験から、お笑い芸人の世界に憧れを抱くようになり、中学生の頃から本格的にお笑いを仕事とすることを決心する。

志村が中学生だった頃の父・憲司は、校長への昇進を目指して勉強に励む毎日を送っており、自身は「つまらない人生だな」と思っていたとのこと。

東村山第二中学校時代は文化祭でよくコントを披露していたといい、所ジョージの遠戚とバンドを組んだこともあった。その後、両親の方針で「お金がかからない都立に行け」との理由から、新設された東京都立久留米高等学校に進学し、同高の第1期生となる。志村の中学校から同高を受験したのは志村を含めて13人で、教師からは「志村は無理だろう」と言われたが、合格したのは志村1人だけだった。同高ではサッカー部に所属し、GKとして在籍した。

1968年2月、高校卒業間際にいかりや長介の家へ直接押しかけ、弟子入りを志願する。由利徹やコント55号とザ・ドリフターズ(以下ドリフ)のいずれに弟子入りするか迷ったが、音楽性の面からドリフを選んだ(高校二年時に実際に由利徹のもとを訪ね弟子入りを志願したが、断られている)。

雪の降る中、いかりやの帰宅を12時間ほど待ち続けるも、門前払い同然の扱いで、容赦なく突き放されたが、それでも食い下がったため根性を買われ、「バンドボーイ」が辞めてメンバー

に欠員が出たらという条件で仮採用された。いかりやは後に「帰宅すると勝手に居ただけで待っててくれと言った覚えはない」と語った。

一週間後に呼び出された後楽園ホールで、いかりやから正式に採用を告げられた志村が、「じゃあ（高校）卒業したら来ます！」と答えると、「バーカ、明日から行くんだよ、青森に！」と言われ、翌日から青森巡業などへ同行させられるなどすぐに多忙となり、高校卒業式は当日の午前中だけ時間を貰い慌ただしく式に出席し、仕事に戻ったそうです。

加藤茶の付き人となるも1年余りで一度脱走し、バーテンダーなどのアルバイトをしていた。仲間が伝えるのを忘れていたため、脱走したとメンバー内で騒がれていた。戻って来た時にはいかりやの家に行きづらかった事から、加藤の家に行つて頼み、いかりやへ口添えしてもらったところ、「二度も弟子入りする奴は、よくよく好きなんだろう」と出戻りを認めてくれた。その後、しばらく加藤の付き人兼加藤家居候となる。

1972年、22歳の時に井山淳とお笑いコンビ・「マックボンボン」を結成し、「志村健」の芸名で芸能界デビュー。井山のボケに対して、志村が立ったままの姿勢から足で顔面にツッコミを入れるなど、身体を張ったネタを披露し、歌謡ショーの前座として人気を獲得していく。

10月には早くもコンビの名前を冠したテレビ番組『ぎんぎら!ボンボン!』（『シャボン玉ホリデー』の後番組で、後に放送時間を変更の上で『シャボン玉ボンボン』に改題）に出演が決まり、芸能界デビューが冠番組となる幸運となるが、知名度の低さ、ネタの少なさも人気は低迷。12月31日放送分で番組は打ち切りとなり、この時点で井山が脱退（失踪）。コンビはその後自衛隊出身の福田正夫を相方に迎え心機一転を図るが、福田はそもそも芸能界志望ではなく、ネタ合わせも全く身が入らない有様で、結局自然消滅へと向かう。

志村はその後ドリフターズの付き人に戻ったが、戻った直後の1973年12月に「メンバー見習い」の扱いで、「志村けん」に改名した上でドリフに加入する。

1974年3月31日をもって荒井注が脱退し、4月1日に正式にドリフのメンバーとなる。この時、いかりやは自分や荒井と同年代の新メンバー豊岡豊の加入、及び、すわしんじの昇格も検討していたが、志村の順番であったことと加藤の推薦により若手の志村が起用された。当時、志村は24歳だった。

以上が志村けんさんの誕生からドリフターズのメンバーになるまでのお話です。志村さんへの追悼として前後編でお伝えさせていただきます。この続きは後編で・・・（4月23日第2724号にて）

【例会の記録】

*SAA 奥寺浩司さん

*司会 河野正美さん

出席報告】

会員数 38名（内女性6名）
本日の出席者 9名（出席率 39.13%）
修正後の出席率 82.61%

【幹事報告

掛川浩邦幹事】

今週の着信

- ・第2600地区事務所より
新型コロナウイルス感染による今後のクラブ活動運営について
- ・米山記念奨学会より
特別寄付に対する感謝状送付
牧幸男さん メジャードナーへの感謝状
服部正さん 米山功労者への感謝状
- ・日本ユネスコ協会より
「書き損じはがき回収キャンペーン」に対する礼状送付

今週の配布物

会報No.2722

週報恵送

上田RC

【にこにこBOX報告】

服部正さん、掛川浩邦さん 佐藤重喜さん
小宮山陽一さん、長島三夫さん、井田宗広さん
河野正美さん、吉村香織さん、

本日の喜投額 16,000円

今年度累計額 587,000円

【米山記念奨学会 特別寄付表彰】

牧幸男さん…メジャードナー13回

服部正さん…米山功労者

